

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」 第1回推進会議の概要について

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」の第1回推進会議を、平成25年7月11日（木）に開催しました。

第1回推進会議には、6名の委員全員にご出席いただくとともに、会議の進行を補助するファシリテーターとして国立大学法人三重大学教育学部教授の杉田 正明氏にご出席いただきました。

なお、第1回推進会議の概要は、以下のとおりです。

「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」委員及びファシリテーター

※敬称略、50音順、カッコ書は役職

伊藤 亜衣美（三重バイオレットアイリス
選手 ハンドボール）

北畑 亨（熊野市観光スポーツ交流課
スポーツ交流係長）

清水 栄嗣（NPO法人伊賀フューチャーズ
クラブ理事長）

辻 正敏（株式会社辻工務店取締役社長）

堀越 英範（三重県高等学校体育連盟理事長）

前田 浩司（三重県障害者スポーツ協会
専門委員会 委員長）

ファシリテーター

杉田 正明（国立大学法人三重大学教育学部
教授）

<推進会議の進行概要>

会議の大まかな進行は以下のとおり

開会 10:00

- ・スポーツ推進局長あいさつ

概要説明

- ・プロジェクトの概要及び平成24年度推進会議
- ・平成24年度プロジェクトの成果と検証
- ・平成25年度実践取組の状況

プロジェクト推進についての意見交換

- ・スポーツによる地域の活性化
- ・みえのスポーツを支える人づくり
- ・障がい者スポーツの推進

閉会 12:30

（スポーツ推進局長あいさつ、県事業の説明）

冒頭、世古 定スポーツ推進局長から、昨年度の会議の総括と今年度の取組に向けた意見をいただきたい旨、説明を行いました。



また、「夢と感動のスポーツ推進協創プロジェクト」のプロジェクトを構成する2つの実践取組における昨年度の取組状況及び今年度の取組について、事務局職員から説明しました。

※2つの実践取組

- ①「スポーツによる地域の活性化」
- ②「スポーツを支える人づくり」

(プロジェクト推進についての意見交換)

続いて、杉田教授の司会により、プロジェクトの推進に向けて、次の3つのテーマに基づき意見交換を行いました。

スポーツによる地域の活性化について
みえのスポーツを支える人づくりについて
障がい者スポーツの推進について

各委員からは、日頃の活動の中で感じる課題を踏まえた意見や提案をいただくなど、活発な意見交換が行われました。

委員からの主な意見

スポーツによる地域の活性化について

- ・ 全国中学校体育大会の新体操競技を伊賀市で実施するが、地元の子どもが出場する可能性が高いのに、地域住民に認知されていない。もっとメディアを使ってPRする必要がある。県外からの来客も多く、おもてなしを充実させるなどして、リピーターの呼び込みにつなげてはどうか。
- ・ 広報には、フェイスブック等を有効活用することで、若い世代への大きなPRになると思う。
- ・ 東京でのオリンピック開催が決定した時を捉えて、三重県のスポーツ推進についても広報する必要がある。
- ・ 広報はメディアの活用が重要である。最近では、電車の中でも宙吊り広告を見ている人は少なく、みんなスマートフォンを見て下を向いているので、床に広告を出すなど、アイデアが大切である。
- ・ メディアに対して、どのように情報提供をするのか、工夫をするべきである。競技団体の把握している情報を活用して、トピックスを集めてはどうか。

みえのスポーツを支える人づくりについて

- ・ 三重県高等学校体育連盟が実施した県内の高等学校への調査によると、高校で運動

部に所属していない生徒の割合が、男子よりも女子のほうが高くなっている。その理由として、「体力に自信がない」という理由も多数となっているため、まずは幼少期の体力づくりが重要になってくる。

- ・ 部活動に所属しない(運動しない)子の受け皿として、総合型地域スポーツクラブが役割を果たすのが理想であるが、現状においては、指導者の確保等の問題があり困難である。競技力の向上を目指す子と運動を楽しむ子とを、部活動とサークル活動のように、完全に分けてスポーツ活動を実施できれば、時間に制約のある子や体力に自信のない子も、スポーツをする環境が整い、スポーツをしない子が減るのではないかと。
- ・ 指導者に惹かれて、運動部に入部する事例は結構多い。単に生徒に部活動に入れというのではなく、よい指導者を確保することが大事である。
- ・ 全国体力・運動能力調査結果において、活発に運動する子とそうでない子の二極化が進んでいる点が重要なポイントである。能力の高い人が少ないのか、それとも能力の低い子が多くて平均値を下げているのか、平均値だけでは判断できないので、詳細な分析をしないといけない。

障がい者スポーツの推進について

- ・ 三重県では全国大会に出ていく種目がそろっていない。今年度も4つの競技団体を立ち上げるために活動している。ボランティアなどで、幅広い人が障がい者スポーツに関われるようになるのが理想である。障がい者スポーツの指導について、健常者スポーツの指導者であっても、有益な指導をいただける場合がある。

その他

- ・ 熊野市では、スポーツ合宿で誘致した方を、リピーターとして熊野古道などの観光で再

度訪れてくれるよう、取組を進めている。

- ・ 県内でスポーツ合宿を計画している方のために、施設等が一覧になったガイドブックを作成してはどうか。

など



今後の開催予定

11月中旬に第2回推進会議を開催する予定です。